

常任委員会視察報告書

委員会名	総務常任委員会 (中村聡一郎委員長、長嶋竜弘副委員長、竹田ゆかり委員、池田実委員、岡田和則委員)(千一委員は欠席)
視察先 調査事項 など	1 交流拠点としての公共施設の在り方について(新潟県三条市) ・令和6年10月21日(月)14時00分～15時30分 ・説明課:三条市市民部生涯学習課 2 交流拠点としての公共施設の在り方について(新潟県五泉市) ・令和6年10月22日(火)10時30分～12時00分 ・説明課:五泉市教育委員会生涯学習課
視察先 概況	1 新潟県三条市の概況 三条市は、平成17年5月1日に、三条市、栄町、下田村の3市町村が合併し、新「三条市」として誕生しました。 面積は、431.97平方キロメートル、人口は、令和6年4月1日現在で、91,905人で、近年は微減の状況が続いているとのことです。 三条市で盛んな金属産業については、17世紀初頭に五十嵐川の氾濫に苦しむ農民を救済するため、当時の代官が江戸から釘職人を招き、農家の副業として和釘の製造を指導、奨励したことに端を発しており、現在は、鍛造技術を基盤とした様々な製品を製造し、「伝統の技」と先端技術が調和する新技術、新商品開発が盛んな都市となっています。 当委員会が視察を行った「まちやま」は、三条小学校の跡地活用として、三条市立図書館の移転建て替えを契機に、従来の図書館の枠に収まらず、多世代・多目的な活動と交流の拠点となる「まちなかの中核施設」を目指して計画され、図書館、鍛冶ミュージアム、科学教育センター、「ステージえんがわ」などの複合施設として建設されました。 2 新潟県五泉市の概況 五泉市は、平成18年1月1日に、五泉市と村松町が合併し、新「五泉市」として誕生しました。 面積は351.9平方キロメートル、人口は、令和5年10月31日現在で、46,653人で、近年は減少が続いているとのことです。 また、良質で豊富な水資源に恵まれ、古くから絹織物の産地として、戦後はニット産業の発展が著しく、現在も日本有数のニット生産地として知られています。 当委員会が視察を行った「ラポルテ五泉」は、「文化振興」、「産業振興」、「子どもの遊び場や休憩機能」を併せ持つ複合施設として建設され、令和3年10月にグランドオープンしました。

1 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県三条市)

三条市は平成17年に3市町村が合併し、人口が約92,000人の市であり、和釘の製造などから農機具や金属加工が栄えているまちである。その鍛冶技術や匠の技が発展し、今日では若い世代が移住して技術を学んでいるとのことである。また、アウトドアメーカーの集積地という背景を活かし、災害時の防災力を高めているとのことである。今回の視察の対象である「まちやま」という施設は耐震不足の学校の跡地活用並びに図書館の移転建て替えを契機に多世代・多目的な交流起点として計画されたものである。施設のコンセプトは学ぶ・見る・触れる図書館等複合施設として、また実験などが可能なサイエンスラボなどが配置され、さまざまなイベントができるスペースもあった。

賑わいのある1階のエリアには小さい子どもの図書を置き、2階には幅広い世代が学べるフロアとして会議室なども設置されていた。3階には中高生が自習などできるスペースを置き、静かなエリアとし、近年の図書館の特徴として大いに参考にさせていただいた。また、1階には鍛冶ミュージアムがあり、ものづくりのまち三条市としてのステータスを高める場としていることも印象的であった。多くの方が交流できるこうした施設は鎌倉にとっても必要であると感じた。

中村聡一郎
委員長
所感

2 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県五泉市)

五泉市は平成18年に1市1町が合併し、人口が約47,000人の市で、絹織物やニット繊維製品、さといもなどの農産物の産地である。今回の視察の対象である「ラポルテ五泉」は芸術などの学びの場にもなる多目的ホールや地場産業の特産物の販売や子供のひろばの交流拠点として開設された。

ひとの交流と物流の活性化という複合施設として徐々に来館数も増え、市民の賑わいの場として利用率が高まっている。多目的ホールは、椅子の収納などが可能で様々な催しに対応でき、稼働率を上げているとのことである。

鎌倉市としてはスペースの確保の課題があるもののこうした賑わいを生み出す複合施設の開設は必要であると感じた。

複合施設の在り方については、多様化する市民ニーズと運営費など持続可能な展望を持ったうえで計画を進め、公共施設の再編の早期実現をしなければならぬと感じた。

1 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県三条市)

2022年7月24日開館した三条市図書館等複合施設「まちやま」に訪問した。

学ぶ、見る、触れるの3つの機能があるものづくりのまちの図書館等複合施設。まちの中にある大きな山のような施設のかたちと、その中にあるいろいろな楽しさや知識、学びがつまっているという様子をイメージしたという名称。「図書館」、「鍛冶ミュージアム」「科学教育センター」、「ステージえんがわ」「ひろば」が一体となった施設。にぎやかさと静けさが共存し、1階はカフェなどの新たなサービスとにぎわいのフロア、2階は幅広い世代が学ぶフロア、3階は静かな読書と学習のフロアとなっている。

①図書館機能…開放的で自由な学び、知識、くつろぎの空間 ②鍛冶ミュージアム機能…ものづくりのまち 三条で受け継がれてきた鍛冶の精神や知見、歴史、技術を伝える場 ③科学教育センター…「ものづくり」のDNAを受け継ぐ児童生徒の科学的思考と想像力の育成。

訪問した日は残念ながら休館日でしたが、私は個人的に三条市の方々と親しくしており、昨年秋の土曜日にまちやまに訪問した。その時はイベントや体験学習など多くの行事が行われていたと共に、図書館は子ども達が非常に多く来館しており、大変活気とにぎわいがあった。児童書コーナーが充実しており、子どもトイレと授乳室もある。カーペットが敷いてある「おはなしの部屋」があったり、フタ付きの飲み物の持ち込みができたりする。図書館を中心とした複合交流施設というものの“ありかた”について新たな認識を持った。

2 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県五泉市)

2022年10月2日開館した五泉市交流拠点複合施設「ラポルテ五泉」に訪問した。

ラポルテ五泉は、約2万4,000㎡の敷地に床面積3,700㎡の建物と3つの広場をもつ施設。館内には、芸術や学びの場となる多目的ホールや多目的室。市が日本に誇るニットや絹産業、地元特産物を販売する産直ショップ&カフェテリア。木造建築を生かして面白遊具を備えた「子どもの遊び場」や開放感あるガレリアの空間がある。また綺麗で清潔なトイレを24時間開放。2023年3月には五泉駅前にあった五泉市観光案内所を移転している。

ラポルテの「ラ」は冠詞で「ポルテ」はフランスやイタリア語で「扉」や「門」という意味。「五泉市の発展に向け新たな扉が開かれる拠点になってほしい」という願いが込められている。音楽用語でラポルテは、楽譜を書く紙「五線紙」の意味もあり、「五泉市」に重なる響きの良さも重なってつけられた名称。

音響にかなりこだわったホールが中心の施設であるが、併設して120品種5,000株の花が咲くぼたん園があり、観光・商工と子ども達の遊び場・学びの場をからめた複合交流施設となっており、人口4万4千人規模の市でありながら、オープン3年で120万人の来場者を達成している。施設のコンセプトを考えると、鎌倉市としては非常に参考になる施設だと思われる。

田邊市長はなんと平成20年12月から5年間鎌倉プリンスホテルの支配人をされており、これをご縁に五泉市と様々な交流が出来たらと思っております。

1 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県三条市)

新潟県三条市「図書館等複合施設まちやま」(2022年開設)を視察し、建設に至るまでの経緯及び現状について学んだ。三条市は2005年、三条市、栄町、下田村の3市町村の合併市で、人口9万1千人、市域面積は432km²を有す。

「図書館等複合施設まちやま」は、三条小学校の跡地活用として、旧図書館の移転建て替えを契機に、従来の図書館の枠にとどまらない多世代・多目的な活動と交流の拠点となる施設を目指して計画され、設計は古くから人々が住み続け育まれた人のつながりをより強く、より活性化させることを目指したものとなっている。指定管理者募集要項では、設置目的を「市民の豊かな知性及び感性を育む多彩な学習活動の活発化を図り、もって市民の教育及び文化の発展、並びにまちなかのにぎわい創出に寄与すること」としている。「図書館とにぎわい」が融合できるのかという疑問を持ったが、「ものづくりの歴史」を鍛冶ミュージアムで学んだり、サイエンスラボでの科学的な学びから図書館にいざなう流れが意識されていたり、また、市民が集い学ぶための会議室が配置されているなど、図書館の中で学びと交流が両立できることが証明されていた。児童書、一般書が配架された2階フロアでは静読を求めず、3階は静読・学習室になっている。館内にカフェがあり、敷地内には食堂、グラウンドひろば、ステージ、ホールなどもあり、開館日には多くの市民が一日を過ごしているとのこと。年間利用者130万人。複合施設とは施設の合体ではなく、融合であるということ学んだ。隈研吾氏のアイデアが随所に活かされている。

竹田ゆかり
委員 所感

2 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県五泉市)

新潟県五泉市「交流拠点複合施設ラポルテ五泉」を視察し、建設に至るまでの経緯と現状について学んだ。五泉市は、2006年、旧五泉市と旧村松町との合併市で、人口4万6千人、市域面積は351.9km²を有する。

2005年、五泉市・村松町合併協議会において「(仮)生涯学習センター」と「(仮)産業振興センター」建設を計画した。当初は施設を単体として計画していたが、2014年、市民検討会議において、2つのセンターの複合化により共有スペースの有効活用・稼働率の向上を目指して、「複合施設として整備すべき」との意見が多数上げられた。市は複合化により、それぞれの活動が関わり合う中で、子どもから高齢者までが気楽に集える「憩いの場」「賑わいの場」を創出することとした。建設事業費35億7千万円。2021年開館。運営体制は指定管理者による。施設は3つのエリアからなり、「生涯学習エリア」には500席の多目的ホールがあり、座席はすべて可動式。行事内容によってホール全体がフロアとして活用できる。「産業振興エリア」では、市内事業者の物販が7割を占めている。「共有エリア」では、子どもの遊び場、ワークショップ、イベント等が行える。2014年の市民検討会議(16人)では、「異なる施設を合体させることには無理がある」との声もあったが、複合化により、異なる目的で集まった市民が、多様な学びと出会い、市民の交流拠点、憩いの場となっている。事業スタート段階で、市民意見を十分に取り入れたことで成功した複合施設と言える。目標年間利用者数25万人を超え毎年約40万人が利用している。

池田 実
委員 所感

1 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県三条市)

(1) 視察日 令和6年10月21日(月)

(2) 三条市概要

ア 人口 91,905人(令和4年4月1日現在)

イ 面積 431.97km²

ウ 平成17年5月1日に三条市、栄町、下田村の3市町村が合併

エ 金物製品を中心としたモノづくりのまちとして有名で海外からの需要も多い

(3) 視察概要

三条小学校の跡地活用として、図書館の移転建替えを機に従来の図書館の枠に収まらず、多世代多目的な活動の拠点となる複合施設「まちやま」を建設し、令和5年7月に完成した。

図書館に金物製品の展示(鍛冶ミュージアム)や、子どもたちが理科学習できるサイエンスラボやまたカフェも併設されている。

図書館は階数ごとに対象年齢を区分した書籍が配置されており、ゆったりとした空間に学習スペースもあり、中高生などの居場所としての役割も果たしている。

多様な年代の居場所として、交流の場として、市民に人気の空間となっている。

2 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県五泉市)

(1) 視察日 令和6年10月22日(火)

(2) 五泉市概要

ア 人口 46,653人(令和5年10月31日現在)

イ 面積 351.91km²

ウ 平成18年1月1日に、旧五泉市と旧村松町が合併

エ 繊維産業が有名で、古くから絹織物の産地として知られ、戦後めざましい発展をみたニット産業は全国的な産地となっている。

(3) 視察概要

今回視察した「ラポルテ五泉」は五泉市と村松町の合併協議会が建設計画を行って合併時のシンボリックな施設として、「生涯学習と芸術文化の振興」と「観光と連動した産業振興」の機能を併せ持った複合施設として整備された。

施設内には、500席のホールと子どもの遊び場や観光案内所、物産販売、休憩場所などが併設されている。

多世代が楽しめ活用できる交流拠点として、また五泉市の情報発信拠点として有用な施設である。

窓の外には田園風景があり、隣接の東公園はチューリップが有名で、お天気の日も屋外で楽しめ、お天気の悪い日は屋内のアスレチック遊具で楽しめる、市民の憩いの場として人気の高い施設となっている。

1 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県三条市)

新潟県三条市は平成17年5月1日に三条市、栄町、下田村が合併し、令和6年4月1日現在、人口91,905人の都市。財政力指数0.543(令和5年度)で低下傾向にある。令和4年度にふるさと寄付金が約50億円あり、その三年前に担当者を外部からお呼びしてのうなぎ上りの収入にはビックリした。現在は、その担当者は離任し寄付金も約6億円減少している。今回の視察はJR北三条駅から徒歩3分の所にある「まちやま」というまちなかの複合施設です。鍛冶ミュージアム、図書館、カフェなどがあり、木材を多用に使った現代的施設でした。ものづくりで展示してあった一階のフロアは圧巻で鍛冶ミュージアムは展示品や展示品を収納するガラス張りケースは見応えがありました。その後、三条市役所で座学があり、三条市の概要や包丁や和釘、アウトドア製品など金属加工を中心とする金属産業都市であることが説明されました。三条市の職員は718名、再任用29名、一般任用職員178名(令和6年4月1日)で、職員に対する一般任用職員数の割合が鎌倉市は職員並みに多いが三条市は少ないと感じました。

岡田 和則
委員 所感

2 「交流拠点としての公共施設の在り方について」(新潟県五泉市)

新潟県五泉市の令和5年1月1日現在の人口は47,274人で面積は351.91km²。令和4年度決算カードによれば財政力指数0.43で1を割っている。経常収支比率87.4%。「ラポルテ五泉」は生涯学習と産業振興と子どもの遊び場や休息施設の複合施設で、事業費合計は約39億円。「ラポルテ五泉」の建設経緯として平成17年に五泉市と村松町合併協議会による新市建設計画から生まれた。なお、平成18年1月1日に五泉市と村松町は合併した。ラポルテ五泉は実質的には平成26年の五泉市複合施設市民検討会議から始まり令和3年に完成した。準備4年、建設着工で3年。生涯学習エリアでは500席の多目的ホールがあり、一部手動だが、大半電動稼働で平土間に出来る施設があり、鎌倉市生涯学習センターにある地下のホールを平土間に出来るという仕掛けで、ピアノ空調施設もあり、これは財政規模に合わないある意味贅沢な施設かなと感じた。こういう施設があるというのは「うん、お金があればこういう施設も市民サービスとして出来るのかな」と感じた。鎌倉市民への還元のために鎌倉市はもっと稼がなきゃという受け止めをした。頑張ろう。